

国語

日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2月3日	一	評論読解（渡辺一夫「偽善の勧め」による） 漢字問題・傍線部解釈・慣用句の理解・空所補充・内容一致・文学史	標準
	二	評論読解（渡邊康太郎『コンテキストデザイン』による） 傍線部解釈・言葉の意味・空所補充・内容一致	やや難
	三	国語常識問題 文意の判定・表現の不備判定・語句の正誤判定・語句の選択・慣用表現の理解	標準
2月7日	一	評論読解（土井隆義『キャラ化する／される子どもたち——排除型社会における新たな人間像』による） 漢字問題・語句の意味・傍線部解釈・空所補充・内容一致	標準
	二	評論読解（宮崎裕助『読むことのエチカ ジャック・デリダとポール・ド・マン』による） 漢字問題・空所補充・傍線部解釈・四字熟語・言葉の意味・内容一致	標準
	三	国語常識問題 文意の判定・語句の選択・慣用句・故事成語・ことわざ・語句の正誤判定	標準
2月8日	一	評論読解（山田陽子『働く人のための感情資本論』による） 漢字問題・傍線部解釈・空所補充・脱文の並べ替え・内容一致	やや難
	二	評論読解（北本正章『子ども観と教育の歴史図像学 新しい子ども学の基礎理論のために』による） 漢字問題・語句の意味・空所補充・内容一致	標準
	三	国語常識問題 文意の判定・語句の選択・慣用句・故事成語・ことわざ・語句の正誤判定	標準
2月9日	一	評論読解（永田和宏『知の体力』による） 漢字問題・表現の判定・語句の用例・傍線部解釈・理由判定・空所補充・文学史・内容一致	標準
	二	評論読解（佐藤卓己『あいまいさに耐える——ネガティブ・リテラシーのすすめ』による） 漢字問題・空所補充・傍線部解釈・内容一致	標準

	三	国語常識問題 文意の判定・語句の選択・慣用句・故事成語・ことわざ・語句の正誤判定	標準
3 月 4 日	一	評論読解（今村仁司『近代性の構造』による） 漢字問題・傍線部解釈・空所補充・理由判定・脱文補充・内容一致	やや難
	二	評論読解（松村圭一郎『所有と分配の人類学』による） 漢字問題・傍線部解釈・空所補充・内容一致	やや難
	三	国語常識問題 文意の判定・表現の不備判定・語句の選択・語句の正誤判定	標準

＜出題傾向＞

いずれの日程も大問 3 題の構成となっている。問題一が 3000～3500 字程度の評論を読んで 10 問の設問に答える読解問題、問題二が 2000 字前後のやや短めの評論を読んで 6～7 問の設問に答える読解問題、問題三が設問 4 問、枝問 1～5 問からなる国語常識の問題という構成である。この傾向はここ数年変化していない。解答の形式はすべて 4～8 肢択一のマーク式となっている。問題文は幅広い領域から採用されている。文章は標準的な内容のものがほとんどで、筆者の考えが明確に示されているため、論理的に読んでいけば十分に理解でき、解答できるものが大半である。ただし、今年度の 2 月 3 日問題二、2 月 8 日問題一などは、やや難解で読みにくいと感じた受験生が少なくなかったかもしれない。そのため、油断は禁物である。

問題一・問題二は、文脈を論理的に捉える力があるかどうかを問うものが中心であるが、語彙力を試す問題も多い。具体的には、文中に引かれた波線部の内容や理由・具体例を問うもの、問題文の空所に入る語句や表現、内容を選ぶもの、漢字や文中の語句の意味を問うものなどで構成されている。そして最後の設問では、問題文全体の主旨の理解を問う内容一致問題が用意されている。昨年度は文学史の出題は見られなかったが、今年度は一部の日程で出題されている。近現代文学史の基本的事項は国語便覧などで確認しておく必要があるだろう。

問題三は、言語事項（漢字・文法・語彙など）に関する独立した知識問題である。文意が一通りに限定されるものを選ばせたり、言葉の表記や使い方の正誤を判定させたりするなど、さまざまな形式で国語常識に関する出題がなされている。故事成語やことわざの知識問題もあり、全体を通じて語彙力の有無をしっかりと問うものになっている。

＜学習対策＞

まず、漢字や語句の問題で取りこぼさないことが重要である。難しい語句や難読漢字などは出題されないので、標準的な問題集などで繰り返し漢字や語句の定着を図るように心がけたい。問題三ばかりでなく、問題一や二でも漢字や語句、語彙の問題は必ず出題されているので、出題者が正確な語彙力・漢字力を求めていることは明らかである。漢字や語句の習得には時間がかかり、また地道な反復学習が必要になってくることは言うまでもないが、漢字や語句の知識が定着してくれば、本文の読解力にもつながってくるはずだ。そのためにも地道な練習を続けてほしい。ま

た、日ごろ文章を読んでいてわからない言葉や語句、漢字に出会ったら、その都度辞書などで確認することも大切である。

次に、問題一・二の論理的な文章への対策について述べよう。比較的平易で読みやすい文章が出題されることが多いものの、ときに抽象度の高い読みにくい文章も出題されるので、しっかりとした準備が必要になる。まずは標準的な現代文の問題集を用意して練習してみよう。現代文においては、「反復」や「対比」などの文章構成を読み取ることが重要であり、何が繰り返され、何が対比されているかなどに注意しながら読む必要がある。こうした「反復」や「対比」に注意しながら、筆者が何を主張しようとしているのかを論理的に追いかける読解の練習を重ねてもらいたい。

一通り標準的な文章問題を終わらせたら、さらに上級レベルの文章を扱っている問題集にもチャレンジしていきたい。抽象度の高い文章に積極的に取り組み、本文を深く吟味しながら、抽象的な内容を自分なりに具体化して理解していく学習が求められる。その際に大切なのは「精読」である。実際の試験では制限時間内に解かなければならないが、普段の学習ではじっくり時間をかけた「精読」を心がけよう。主語―述語の関係に注意し、何が述べられているのか、よく考えながら読んでいく作業が大切である。最初は時間がかかるかもしれないが、「読書百遍意自ずから通ず」ということわざがあるように、本文に食らいついて何度も読み返して理解する作業を通じて、次第に文章の理解力も上がっていき、抽象的な文章も読めるようになっていくはずだ。その結果、次第に文章を読む速度も上がっていくのである。

「精読」と併せて注意しておきたいのは、「論理的読解」の大切さである。「論理的に読む」とは「論の流れを追う」ということである。具体的には「筆者の主張」がまずあり、それを説得力あるものにするための「根拠」と「具体例」が示される。この「筆者の主張」と「根拠」「具体例」を意識して捉えることが、論理的に読むということである。また、上でも述べたように、筆者はその主張を強調するために「反復」や「対比」という手法を使う。自分の主張をさまざまな表現や具体例を用いて「反復」し、あえて自分の意見と異なる主張を「対比」させて紹介しながら、その主張を批判しつつ自分の意見をより説得力あるものにする場合が多い。こうしたことを常に意識して問題に取り組むことが論理的な現代文を読む際には不可欠である。

そのうえで、できれば「現代という時代はどのような時代か」ということにも目を向けたい。現代文はその名の通り、「現代」を語る文章である。出題される文章には、現代社会の問題点をあぶりだし、あるべき方向性を示していこうとするものが多く見られる。政治や経済、差別問題や異文化理解、教育のありかたなど、出題される内容は非常に幅広い。新聞や本などでこれらの問題の基本的な知識を習得している場合とそうでない場合とで、読みの深さに差ができてしまうものだ。そのため、現代的な問題を扱った新書などを手に入れ、日ごろからそうした文章に慣れ親しんでおくことも非常に重要である。時間はかかるが、必ず結果がついてくる勉強法だと言える。

以上